



RADIUS 属性 66 Tunnel-Client-Endpoint 拡張

RADIUS 属性 66 (Tunnel-Client-Endpoint) 拡張機能を使用すれば、ネットワークアクセスサーバ (NAS) の IP アドレスではなく、NAS のホスト名を RADIUS 属性 66 (Tunnel-Client-Endpoint) に指定できます。この機能は、ユーザが数字の IP アドレスよりも覚えやすいホスト名を使用できるようにするとともに、NAS の IP アドレス の隠ぺいを支援します。

- [RADIUS 属性 66 Tunnel-Client-Endpoint 拡張の前提条件 \(1 ページ\)](#)
- [RADIUS 属性 66 Tunnel-Client-Endpoint 拡張の制約事項 \(1 ページ\)](#)
- [RADIUS 属性 66 Tunnel-Client-Endpoint 拡張に関する情報 \(2 ページ\)](#)
- [RADIUS 属性 66 Tunnel-Client-Endpoint 拡張の設定方法 \(2 ページ\)](#)
- [RADIUS 属性 66 Tunnel-Client-Endpoint 拡張の設定例 \(2 ページ\)](#)
- [その他の参考資料 \(3 ページ\)](#)
- [RADIUS 属性 66 Tunnel-Client-Endpoint 拡張の機能情報 \(4 ページ\)](#)
- [用語集 \(5 ページ\)](#)

RADIUS 属性 66 Tunnel-Client-Endpoint 拡張の前提条件

VPDN をサポートするシスコプラットフォームが必要です。VPDN の詳細については、[用語集 \(5 ページ\)](#) を参照してください。

RADIUS 属性 66 Tunnel-Client-Endpoint 拡張の制約事項

シスコ デバイスでは、バーチャルプライベートダイヤルアップネットワーク (VPDN) をサポートするシスコのソフトウェア イメージを実行する必要があります。

RADIUS 属性 66 Tunnel-Client-Endpoint 拡張に関する情報

RADIUS 属性 66 Tunnel-Client-Endpoint 拡張の使用方法

バーチャルプライベートネットワーク (VPN) は、レイヤ2フォワーディング (L2F) または Layer 2 Tunnel Protocol (L2TP) トンネルを使用して、上位層プロトコルのリンク レイヤ (たとえば、PPP、非同期ハイレベルデータリンクコントロール (HDLC) など) をトンネルします。インターネットサービスプロバイダー (ISP) は、ユーザからのコールを受信して、それを顧客のトンネルサーバに転送するよう NAS を設定します。通常、ISP はトンネルサーバ (トンネルエンドポイント) に関する情報だけを保持します。顧客では、トンネルサーバユーザの IP アドレス、ルーティング、その他のユーザ データベース機能が保持されます。RADIUS 属性 66 は、顧客が NAS の IP アドレスの代わりにホスト名を指定できるようにします。



(注) L2F は Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータではサポートされません。

RADIUS 属性 66 Tunnel-Client-Endpoint 拡張の設定方法

RADIUS 属性 66 (Tunnel-Client-Endpoint) 拡張のサポートに関連する設定作業はありません。

RADIUS 属性 66 Tunnel-Client-Endpoint 拡張の設定例

RADIUS 属性 66 Tunnel-Client-Endpoint 拡張用の RADIUS プロファイルの設定

次の例は、RADIUS プロファイルの RADIUS 属性 66 (Tunnel-Client-Endpoint) を使用して、ユーザが NAS のホスト名を指定できるようにするための設定方法を示しています。

```
cisco-avpair = vpdn:l2tp-cm-local-window-size=1024
cisco-avpair = vpdn:l2tp-nosession-timeout=30
cisco-avpair = vpdn:l2tp-cm-retransmit-retries=10
cisco-avpair = vpdn:l2tp-cm-min-timeout=2
cisco-avpair = vpdn:l2tp-hello-interval=60
Service-Type = outbound
Tunnel-Assignment-Id_tag1 = ISP1
Tunnel-Client-Auth-Id_tag1 = LAC1
Tunnel-Client-Endpoint_tag1 = 10.0.0.2
Tunnel-Medium-Type_tag1 = IPv4
Tunnel-Password_tag1 = tunnell1
Tunnel-Server-Auth-Id_tag1 = LNS1
Tunnel-Server-Endpoint_tag1 = 10.0.0.1
Tunnel-Type_tag1 = l2tp
```

その他の参考資料

次の項で、RADIUS 属性 66 (Tunnel-Client-Endpoint) 拡張の機能に関する参考資料を紹介し
ます。

関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
RADIUS 属性 66	『Cisco IOS XE Security Configuration Guide: Configuring User Services, Release 2』
セキュリティ コマンド	『Cisco IOS セキュリティ コマンド リファレンス』

標準

標準	タイトル
この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、既存の標準のサポートは変更されていません。	--

MIB

MIB	MIB のリンク
この機能によってサポートされる新しい MIB または変更された MIB はありません。またこの機能による既存 MIB のサポートに変更はありません。	選択したプラットフォーム、Cisco IOS XE ソフトウェア リリース、およびフィーチャセットの MIB の場所を検索しダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。 http://www.cisco.com/go/mibs

RFC

RFC	タイトル
この機能によりサポートされた新規 RFC または改訂 RFC はありません。またこの機能による既存 RFC のサポートに変更はありません。	--

シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<p>http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</p>

RADIUS 属性 66 Tunnel-Client-Endpoint 拡張の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェア リリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェア リリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、www.cisco.com/go/cfn に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 1: RADIUS 属性 66 (Tunnel-Client-Endpoint) 拡張の機能情報

機能名	リリース	機能情報
RADIUS 属性 66 (Tunnel-Client-Endpoint) 拡張	Cisco IOS XE Release 2.1 Cisco IOS XE Release 2.3 Cisco IOS XE Release 3.9S	RADIUS 属性 66 (Tunnel-Client-Endpoint) 拡張機能を使用すれば、ネットワークアクセスサーバ (NAS) の IP アドレスではなく、NAS のホスト名を RADIUS 属性 66 (Tunnel-Client-Endpoint) に指定できます。この機能は、ユーザが数字の IP アドレスよりも覚えやすいホスト名を使用できるようにするとともに、NAS の IP アドレス の隠ぺいを支援します。 Cisco IOS XE Release 2.3 では、Cisco ASR 1000 シリーズ Aggregation Services Router にこの機能が実装されました。

用語集

L2F : レイヤ 2 フォワーディング プロトコル。インターネットでの安全なバーチャルプライベートダイヤルアップネットワークの作成をサポートするプロトコルです。

L2TP : Layer 2 Tunnel Protocol。ダイヤルアクセス領域におけるバーチャルプライベートネットワークの主要な構成要素の 1 つであり、シスコおよびその他のインターネットワーキング業界のリーダーにより支持されているプロトコルです。このプロトコルは、シスコの L2F プロトコルと Microsoft 社のポイントツーポイントトンネリングプロトコル (PPTP) のいいところを組み合わせたものです。

レイヤ 2 フォワーディング プロトコル : L2F を参照。

Layer 2 Tunnel Protocol : L2TP を参照。

ポイントツーポイントプロトコル : PPP を参照。

PPP : ポイントツーポイントプロトコル。同期回線と非同期回線上でルータ間接続とホスト/ネットワーク間接続を提供する SLIP の代替プロトコル。SLIP は IP と連動するように設計されているのに対して、PPP は IP、IPX、ARA などの複数のネットワーク層プロトコルと連動するように設計されています。PPP には、CHAP および PAP などの組み込みのセキュリティメカニズムもあります。PPP は LCP と NCP の 2 つのプロトコルに依存します。

RADIUS : Remote Authentication Dial-In User Service。モデムおよび ISDN 接続の認証、および接続のトラッキングのためのデータベースです。

Remote Authentication Dial-In User Service : RADIUS を参照。

バーチャルプライベートダイヤルアップネットワーク : VPDN を参照。

VPDN : バーチャルプライベートダイヤルアップネットワーク。リモートでダイヤルインネットワークをホームネットワークに存在させ、あたかも直接接続されているかのように見せるシ

システム。VPDN は、L2TP と L2F を使用して、L2TP アクセス コンセントレータ (LAC) ではなく、L2TP ネットワーク サーバ (LNS) で、レイヤ 2 と上位のネットワーク接続部分を終端します。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。